

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 8 日現在

機関番号：14301

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2014

課題番号：24653078

研究課題名(和文) 熱帯圏における日本人社会形成についての経済史的研究

研究課題名(英文) An Inquiry od economic history into the making of Japanese societies in the Tropics Zone

研究代表者

籠谷 直人 (Kagotani, Naoto)

京都大学・地球環境学堂・教授

研究者番号：70185734

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、中央研究院台湾史研究所や新庄市立図書館等に所蔵された貴重文書を使って、蘭領ジャワまで広がる堤林のビジネス・ネットワークのみならず、戦前期のジャワにおける台湾籍民や華僑の実情、そして日本の「熱帯」認識も検討した。この作業の過程で、植民地期台湾の財界の中心的人物であった三好徳三郎の残した史料群の『三好徳三郎関係資料』や『旧台湾銀行文書』を発見し、日本・台湾・東南アジアとのネットワークに関する将来的な研究可能性をひろげることができた。また、本研究を通して、台湾の中央研究院台湾史研究所の鍾淑敏氏との親密な協力関係をつくることのできたのは、次の研究計画につながる大きな成果の一つである。

研究成果の概要(英文)：Drawing upon little archival sources of Kazue Tsutsumibayashi in Taiwan and Japan, this research has explored (1) his business networks expanding into Dutch East Indies, (2) the realities of Taiwanese with Japanese citizenship and Chinese merchants in Java before the World War II, and (3) the perception of the Japanese towards the "Tropics". In this process, I have discovered the first-class primary sources upon a Japanese businessperson in colonial Taiwan (Tokusaburo Misoshi) and the Bank of Taiwan. In future, these sources will take me to more fruitful research on the networks of Japan-Taiwan-Southeast Asia. Through this research, it is a promising result for the next project to have worked together with Professor Shu-ming Chung, Deputy Director, Academia Sinica (Taiwan).

研究分野：経済史

キーワード：経済史

### 1. 研究開始当初の背景

これまでの経済史研究の関心は、温帯において可能となった「工業化パラダイム」に基づくものであり、「熱帯」を射程に入れていたとはかならずしもいえなかった。しかし、近年盛んに議論されるようになった環境史の文脈を念頭におけば、熱帯を温帯における工業化の基盤としてだけとらえることはできない。熱帯には、圧倒的に不安定な環境条件に対して、柔軟に対応する生存基盤が存在することが明らかにされつつある。そうであるとすれば、華僑・華人、そして印僑のネットワークの伸張を、熱帯独自の論理に適応した歴史的事実として読み直すことも可能であろう。

温帯で形成された制度と技術を移植して工業化に成功した近代日本は、熱帯の自然循環を理解していたわけではないだろう。しかしながら、そうであるがゆえに、近代日本は、熱帯の資源や市場に依存するときには、熱帯を熟知していた華僑・華人のネットワークに依存せざるを得なかった。熱帯には世界人口の約半分が居住しており、熱帯の将来は人類史のなかでは、決定的に重要である。

本研究は、ジャワを拠点にした華僑・郭春秧との協働をとおして、事業を展開した日本人実業家の堤林数衛の軌跡を検討することで、熱帯の生存基盤の学知に貢献する。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、熱帯地域を拠点とした華僑・華人のネットワークと、それに依存して経済活動を展開した日本人実業家の活動を通して、「熱帯」圏における生存持続戦略に考察を加えることにある。対象とする時代は、日露戦争後（1905年）から1937年までの日本の戦前期である。熱帯を取り上げる中では、特に旧オランダ領東インドのジャワを念頭においていた。

本研究で取り上げる対象は、堤林数衛という日本人実業家である。堤林は、ジャワを中心に経済活動を展開した華僑（台湾籍民）の郭春秧との関係をとおして、ジャワの日本人社会の中枢にいた人物であった。堤林は、ジャワ現地人が認識する熱帯的空間と、そのなかを伸張した華僑・華人ネットワークに依存して事業を展開した。

堤林数衛が残した文書類を通して、戦前期の熱帯における日本人社会の形成と人の移動を通じた生存戦略を考察し、熱帯の生存基盤の学知に検討を加えることが、本研究の目的である。

### 3. 研究の方法

本研究は、ジャワを拠点に、華僑との協働をとおして事業を展開した、堤林数衛の軌跡を検討し熱帯地域における日本人社会の検討することにある。堤林数衛関係資料は、台湾の中央研究院台湾史研究所に寄贈され、その整理が行なわれていた。そして、新庄市立

図書館、新庄市ふるさと記念館などに所蔵されている堤林関係文書の存在が判明している。それゆえ、研究の方法として、以下の三段階で進められた。

中央研究院台湾史研究所に所蔵されている堤林数衛関係資料を閲覧の上、目録作成・マイクロ化を行なう。マイクロ化と平行して堤林数衛の『日記』（昭和5～12年まで）の翻刻を行なう。

あわせて、台湾史研究所の鍾淑敏氏の協力を得て台湾内における資料を調査する。それは、おもに東南（東）アジア地域（特に現在のジャワ）で活躍した日本人・華僑・台湾籍民関係の資料である。以上を実施して、収集した新規資料の目録化を行なう。

日本、台湾、ジャカルタ関係の資料の横断的な資料目録を作成する。そのうえで、熱帯を拠点にした華僑・華人のネットワークと、それに依存した日本人実業家の活動を通して、「熱帯」圏における生存持続戦略に考察を加える

### 4. 研究成果

本研究は、中央研究院台湾史研究所や新庄市立図書館等に所蔵された堤林数衛関係文書を使って、蘭領ジャワまで広がる堤林のビジネス・ネットワークのみならず、戦前期のジャワにおける台湾籍民や華僑の実情、そして日本の「熱帯」認識も検討した。

この作業の過程で、植民地期台湾の財界の中心的人物であった三好徳三郎の残した史料群の『三好徳三郎関係資料』や『旧台湾銀行文書』を発見し、日本・台湾・東南アジアとのネットワークに関する将来的な研究可能性をひろげることができた。両文書とも、資料目録を作成した。

また、本研究を通して、とりわけ台湾の中央研究院台湾史研究所の鍾淑敏氏との緊密な協力関係をつくることができたのは、次の研究計画につながる大きな成果の一つである。

三年間に行なった主要な研究会活動として、以下のような国際ワークショップが4回という成果である。他の研究プロジェクトとの共催によって、国内外の多くの研究者と情報を交換し、議論を展開することができた。

アジア植民地都市史国際ワークショップ Jakarta's Past-Space, Ethnicity and Urban Development (JSPS 基盤研究 A「グローバル化時代のアジア・ネットワークと地域社会変容 ジャワ海港都市を事例として(代表・籠谷直人)」、総合地球環境学研究所研究プロジェクト「メガシティが地球環境に及ぼすインパクト(代表：村松伸)」、京都大学東南

アジア研究所共同研究「居住区分に基づいたジャカルタ大都市圏における建造環境の構造分析(代表:林憲吾)」と共催、京都大学人文科学研究所、2013年4月3日

第3回在台湾日本語関係資料ワークショップ(人間文化研究機構「日本関連在外資料の調査研究」プロジェクト研究カテゴリーB「植民地期台湾・「南洋」における日本人社会に関する資料の調査・研究(代表:籠谷直人)」と共催) 京都大学人文科学研究所、2014年2月22日

台湾銀行データベース『臺灣銀行所蔵日治時期文書』公開記念ワークショップ(人間文化研究機構「日本関連在外資料の調査研究」プロジェクト研究カテゴリーB「植民地期台湾・「南洋」における日本人社会に関する資料の調査・研究(代表:籠谷直人)」、JSPS基盤研究A「グローバル化時代のアジア・ネットワークと地域社会変容 ジャワ海港都市を事例として(代表:籠谷直人)」と共催) 2015年3月7日

「堤林数衛文書選輯」出版記念ワークショップ(仮)(山形県新庄市と共催) 新庄市、2015年10月(予定)

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計0件)

[学会発表](計7件)

Naoto Kagotani, Japan's Commercial Penetration in Southeast Asia and the Cotton Trade Negotiations in the 1930s: Maintaining Relations between Japan and the Dutch East Indies, Urban Development and Social Integration: Long Term Perspectives, 2014年11月14日、University Indonesia (Indonesia)

籠谷直人、戦前の日本製綿布・人絹布のインド市場での需要、2014年5月25日、同志社大学(京都)

Naoto Kagotani, Opening of the Port Kobe 19<sup>th</sup> Century Seminar on East Asian Maritime History: Asian International Trade Order and Chinese Merchants, 2013年12月25日、Xiamen University (China)

籠谷直人、植民地期台湾の日本関係資料、PNC Annual Conference and Joint Meeting 2013 NIHU's Activity on

Resource Sharing of Humanities (人間文化研究資源の調査と情報化)、2013年12月12日、京都大学百周年時計台記念館・百周年記念ホール(京都市)

籠谷直人、19世紀の東アジア経済、東アジア地域研究会(2013年度大会)、2013年11月30日、神戸中華会館(神戸市)

Naoto Kagotani, Opening the Kobe Port to Foreign Trade in Late Nineteenth Century's Japan, 2013年1月11日、University of Bristol (United Kingdom)

Naoto Kagotani, Toward a Comparative Institutional Perspective: Introduction, XVI<sup>th</sup> World Economic History Congress 2012年7月4日、Stellenbosch University (South Africa)

[図書](計2件)

籠谷直人、鍾淑敏ほか編、茶苦來山人の逸話、中央研究院台湾史研究所(台湾)、2015年3月、537頁

籠谷直人・鍾淑敏共編、堤林数衛関係文書選輯、中央研究院台湾史研究所(台湾)、2014年3月、415頁

[産業財産権]

出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

取得年月日:

国内外の別:

[その他]

ホームページ等

#### 6. 研究組織

(1)研究代表者

籠谷直人(KAGOTANI NAOTO)

京都大学・大学院地球環境学堂・教授

研究者番号：70185734

(2)研究分担者  
なし

(3)連携研究者  
なし